

学校図書館報

赤 土

第58号

編集・発行

群馬県立館林高等学校
学校図書館・図書委員会
印刷／東京広告株式会社

「読書のすすめ」

校長 塩田 久敬

「日本、PISA読解力ランキング過去最低」これは2019年(以下19年と表記、他も同様)12月の新聞見出しに踊った文字です。PISAというのは、OECD(経済協力開発機構)が中心となり、3年毎に実施している国際的な学習到達度テストです。15歳を対象とし、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野を中心とした試験で、義務教育修了時点で学んだ知識を実生活にどの程度応用できるのかを測ります。冒頭の新聞記事は、18年に実施した結果が、日本は参加した79の国・地域の中で読解力が15位であったことを報じたものです。ちなみに他の分野は、数学リテラシーが6位、科学リテラシーが5位という結果でした。読解力の順位については、4位(12年)、8位(15年)、そして今回は15位(18年)と急落しています。その原因については様々な説が論じられていますが、文部科学省国立教育政策研究所は、「自分の考えを他者に伝える能力に課題がある」と考察しているようです。他にも、コンピュータを利用した調査方法に変更されたことから、このような試験形式に不慣れであった可能性も指摘されています。

読書をする生徒としない生徒の得点には明らかな差がみられることや、授業でのICT機器活用率が日本はOECD加盟国中最下位層にあることなども報告されていますので、これらの考察や指摘も全くの的外れというわけではなさそうです。ところで、館林高校生徒の皆さんは読書が好きですか。2学期充実度アンケートの結果をみると、今学期中に2冊以上の本を読んだ生徒は37.5%、全く読まなかった生徒が29.0%でした。3年生に限れば63.2%の生徒が全く読まなかったと回答しています。大学入試が迫り、時間的・精神的余裕がなかったのでしょうか。1・2年生の諸君は今のうちに沢山の本に触れておきましょう。

読書の意義とは何なのでしょう。か。「子どもの読書活動の推進に関する法律(こなな法律もあるんです)」によると、読書活動の意義は「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないもの」と記されています。ずいぶん大段に構えています。公的な文言ですから仕方がないのかもしれませんが、私自身は読書は好きなほうですが、あまり意義とかを考えて読んだという記憶はないです。ここで私の読書との関わりを紹介します。高校時代については、以前に「図書館だより」に書いた文章を引用します。

「クラスメイトに非常に本の好きな男がいました。今なら『オタク』に分類されるであろう彼の影響でSFやミステリーといった分野の本を読むようになりました。彼に教えてもらった小松左京、星新一、筒井康隆、平井和正といった日本SF界重鎮の作品を入口に、高校から大学時代にかけて、早川SF文庫、創元推理文庫などの本を読みあさっていた記憶があります。…」

現在の私の読書事情は、勤務する学校図書館で出会う本が占める割合が高くなっています。司書の先生や図書委員さん達が様々な工夫をこらしておすすめの書籍を紹介してくれて、すの「何となく」とか「タイトルや装丁に惹かれた」とかで気になった本を取りあえず借りて読み始めます。なかなかまとまった時間がとれないのですが、隙間時間を見つけて読み進めています。義務で読むわけではないので、少し読んでみて興味を持てなければそれでお終いです。先にも述べてますが意義とかは考えてないので、読んでいる時間を楽しんでいるかが重要になってきます。以前にある方が「読むと役に立つとかの損得を考えるのは、(本との)出会いのチャンスを失う」というような事を何か書いているのを読んだことがありますが、全くその通りだと思います。国としてはPISAの成績低下も大きな問題でしょうし、高校生としては受験に役立つかどうか

『校内読書会』



☆デキスト
「スターティング・オーヴァー」
三秋結著/KADOKAWA
☆テーマ
「彼が幸せだと感じていた一度目の人生は、本当に幸せだったのか」



◆2年1組 青木 稜菜
今年は、邑楽・館林地区合同読書会ではなく自分の高校だけで読書会をすることになりました。女の子と話し合えるチャンスだと思いましたがそんな夢はすぐに打ち壊されました。しかし、僕は初めて読書会班になりみんなと読書会をしました。たが、たくさんみんなと一つの本について意見交換をしたり、時には意見が対立したり、人それぞれ違った考え方や意見があることに気づかされました。最初

おも大きいとは思いますが、難しいことは考えず、まずは一冊手に取って読んでみましょう。楽しい時間が待っているはずですが、最後になってしまいましたが、令和3年度学校図書館報「赤土」発行に当たり、原稿執筆を始めご協力・ご尽力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

〈補足〉21年に予定されていたPISAはコロナ禍により22年に延期されました。

る視野が広がったと感じました。来年は読書会には参加ができませんが機会があったらまた参加したいです。

◆2年1組 中村 隼人

今年度も七校合同で開催する予定だった読書会がで

きなかつたことが残念だと思いました。

今回読んだ『スターティング・オーヴァー』という作品は二十歳になった主人公が十年前にタイムリープするという話でした。テーマは「彼が幸せだと感じていた一度目の人生は、本当に幸せだったのか」という内容でした。自分の意見はまた同じような人生にしたいと思えるような人生なら幸せだと思えるというものでした。周りの人もよく分らないという意見もありましたが、ほぼ全員が幸せだったと思うでした。後半では一周目ではなく、二周目の方を中心に話が進んでいきました。二度目の人生はどうして失敗したのか、その後登場人物達がどうなったのか気になったことや発言などを話していました。

自分が一番気になったのが、二周目でも幸せだった2人の一周目がどういうものだったのかでした。

今回の読書会で、幸せや何かに囚われることについて考えました。そこで感じたことや、考えたことを生かせるようにしたいと思いました。

◆2年3組 川井 遥太

「二回目の人生は本当に幸

せだったのか」二周目の僕が繰り返そうとしたほどの人生だったのだから、幸せだったのだろうかという意見が大半だった。私もおおむね同意だ。ただ、一点だけわかない部分がある。それは、事故で死ぬということを知った主人公は、一回目の人生を幸せだと思えるか、という部分だ。もつとも、作中に描かれていない部分なので、話し合うだけ無駄ではあるのだが……。私個人にあてはめて考えてみると、私は、死ぬことをそこまで不幸だとは思っていないので、一周目は幸せだったと思っている。七校合同読書会があったなら、聞いてみても面白かったかもしれない。

二年連続で校内開催のものと なってしまつた読書会。ぶっちゃけ「やる意味ある？」とは思いますが、過ぎたことだし考えないことにしよう。果たして、来年は無事に開催されるのだろうか……。来年こそはと、ひっそり願っています。

◆2年3組 曾原 煌暉

新型コロナウイルスの影響で七校合同での読書会が行えなかったことは残念ですが、今回初めての参加してみても、自分以外の感想や考えを聞け、有意義だったなと思えました。例年と違って一人一冊ではなく本を回し読みしたため、本を読んだから時間が経ってしまったことも残念だなと思いましたが、テーマについては概ね幸せだと感じていたのだ

うという意見にまとまっていたので、もつと他の意見を考へてみたいと思います。

次に二度目の人生はどうして失敗してしまつたのかについて意見を出し合いました。意見の中で、主人公が一度目の人生に囚われすぎていたという意見には、確かにそうだなあとはいました。次に話し合ったのは、気になった出来事、登場人物の言葉についてでした。出された意見の中でも、今後の妹や両親との関係についてと、ヒイラギが二度目の人生をどうしようとしていたのかについては、特に知りたいなと思いました。またやってみたいなど思える活動でした。

◆1年1組 大川 翼

私は今回の校内読書会を行つて感じたことが二つあります。

一つ目は本をしっかりと読むようになったことです。私は校内読書会を行う前までは小説をあまり読むことがなく、読んだとしても内容をあまり考えずに読んでいました。でも、今回の校内読書会で『スターティング・オーヴァー』の感想などを発表しなければならなくなると、内容を理解して本を読むことが楽しくなり、最近は大川さんの本を読んでいます。校内読書会をきっかけに本をたくさん読むようになったので良かったです。

二つ目はいろいろな意見を聞くことができたことです。

す。自分が考えてもいないような意見がいろいろ聞けたので良かったです。

私は今回の読書会をきっかけに読書をたくさんするようにしたり、いろいろな意見を聞くことができたので読書会を行つて良かったと思えました。

◆1年1組 栗原 航太

私はこの読書会に参加して、本に対する興味がわいて良かったと思う。初めて本を読んで感想を互いに伝え合えた。また、この読書会のおかげで、初めて小説を読破することができた。

今回はコロナのせいで館林高校の人としかできなかったが、来年は他校の人とも一緒にやりたいと思つた。今回読んだ本の面白さやストーリーなどをよく理解することができた。もし、自分が十年前に戻れるのなら彼女を作りたいと思つた。

非現実的だけど、十年前に戻つてみたい。将来自分も主人公のように、過去に戻りたくない程幸せな人になりたいと思つた。

来年も図書委員会に入つて読書会に参加したい。次こそは館林高校の人以外にも、もつと意見交換をしていきたい。

◆1年2組 岩下 彪雅

これまで、みんなと同じ本を読み、それについて発言していくというような経験をすることがなかった。この読書会では良い経験ができました。

まずテーマについての話になった時は、みんなそれぞれ違った意見で、自分とは違う着眼点でもとても興味がわきました。本の中の言葉を引き出して答えるということが自分の中で抜けていたことで、少し後悔しました。次に、本を読んで感じたことについての話では、共感できるような感想が多く、また本を読み返したくなるような感想でした。

最後に、また読書会に参加するかどうかは分からないけれど、本の読み方や目の付けどころなどは他の人を参考にした。吉田先生に言われたように言葉の意味などを考えたりしながら他の本も読んでいきたいです。

◆1年2組 篠原 祐和

私は、校内読書会をとっても有意義な時間であると感じた。『スターティング・オーヴァー』という一つの小説の見え方が一人一人違つていて、私が感じたこともあれば、中には全く思いもよらないものもあった。例えば、「ツグミやトキワはどう思つたのだろう」だ。詳しい台詞は覚えていないが、トキワが「君は僕だ」的な事を言つていた気がする。ということとは、少なくともトキワは自分の落ちぶれた姿を見ていたということになる。そんな時、何を思つていたのだろうか。そ

んな、よく読んでいけば思いそうなことを私は読書会で意見を聞くまで、考えもしなかった。その時実に愕然とするとともに、こうしたことを気づかせてくれる読書会はとても有意義な時間だった。

あと、個人的には、少数で意見を出し合う校内読書会の形式はとてもよかった。少数なので意見を言いやすく、テキパキ進む。しかし、それでいてきちんと印象に残っている。今後もこの形式を検討してみたい。

◆1年3組 ナカムラ ムリロ

感想は、放課後にやったことと期末テスト近くの日開催されたことがあまりうれしくなかった。そのため、読書会中ずっと「早く終わってほしいかな」と思つていました。そのため、次回読書会がある場合、時期と時間をずらしてもらいたいと思つた。しかし、悪い事だけではなかったです。他の人の意見を聞けてとても満足しています。自分とは逆の考え方や、似た考え方など様々な意見を聞いたのがよかったです。

◆1年3組 松井 遼太

今回は、七校合同読書会がコロナで中止になり、校内だけの読書会になってしまひ、せっかくなら七校合同でやりたかつたなど、少し寂しい気持ちです。

今回読んだ『スターティング・オーヴァー』は、普段はあまりやらない、考察をしながらか読み進めました。その時の考察をそのまま紙

に書いたもので、しっかりと自分の意見を言えたと思います。

読書会で感じたことは、人それぞれ感じ方が本当に違うことです。私にはあまり本の感想を語る人がいないので、今回のような機会は貴重で、とても面白かったです。気になった事も、主人公の心情も、一人一人の感じ方が違って、新しい視点でこの本を見ることができました。

他人の意見に、自分の意見を言いたい時もあったが、今回はそれが叶わなかったのが、残念でした。来年、図書委員になったら、七校合同で新しい意見や視点を知りたいなと思いました。

◆1年4組 松原 博政

今回、この読書会に参加して、とても有意義な時間を過ごすことができたと思いました。この読書会をする前まで、今回読んだ『スターティング・オーヴァー』の様な本は読んでいたことがなかったのですが、この機会に読むことができて本当に良かったと思える程おもしろい本でした。

読書会に参加する前に、決められたテーマについてかなり考えていたのですが、他の人の考えを聞くと、やはり自分の一人の話では出てこない考えや、気付けない視点があると思いました。そのような自分が気付かなかった事を知れるのと、とても嬉しくなれるので、こうやって同じ本を読んで、意見交換をする会は必要だ

と思いました。

今回は校内だけだったのですが、本当は他の学校との合同ということで、もし予定通り行われていれば、もっと多くの自分が気付かなかった事や、まったく別の意見を聞けたかもしれないと思うと少し残念ですが、校内は校内で、先生の話も聞けておもしろかったです。

◆1年4組 吉永 士郎

私は、『スターティング・オーヴァー』を初めて読みましたが、とてもおもしろい本だと思いました。現実ではありえないことだらけでしたが、読み始めてしまうとのめりこんでしまいました。

今回の読書会は初めてで、多少の緊張がありましたが、一人一人の違った意見も聞けたりして、とても有意義な会でした。ただ、自分であらかじめ書いていた事を読書会では全然話してなくアドリブでした。二年生の人達は、我々一年生と違い共感することができると、一年違っただけでもすごいと思いました。

私はこの小説の内容がうろ覚えで、最初に先生があらすじを読んでくれたのだからうまく発表できなかったかもしれません。私は今回のテーマについては、一度目も二度目も幸せだと感じていました。なぜかという、どっちもハッピーエンドだったからです。来年もし図書委員をやるならば、私は読書会か広報で迷うかもしれません。

新着任者座談会

テーマ 私と読書
令和3年5月28日(金)

第一期期末考査最終日、新着任の先生方に読書体験を話していただく新着任者座談会が開催されました。

- ① 一行の本棚(心に残っている本、おすすめの本のうちの「これ」という一行)
- ② 好きなジャンルの本・作家
- ③ 読書の「きっかけ」
- ④ 活字離れの高校生へ向けて
- ⑤ 電子書籍について



塩田 久敬
校長 ①「人類の至宝の1冊」

②「好きなジャンル」古典的なSFやミステリー、数学や科学に関連する分野「好きな作家」現在では特に決まった作家はいませんが、高校時代は上記ジャンルの作者である、ジェイムズ・P・ホーガン、アーサー・C・クラーク、アイザック・アシモフ、ジョン・ル・カレ、などの作品をよく読みました。

③小さい頃から図鑑や百科辞典などを眺めているのが好きであった。小説とかをたくさん読むようになったのは、高校時代の同級生の影響が大きい。
④難しく考えず、まずは手に取ってみること。そのためには図書館や書店に足を運んでみるのが第一歩か? 本校の図書館も街の書店も、お薦めの本を紹介する様々な工夫に溢れてい

る。
⑤紙のページをめくる感覚が好きなので、読書の対象としては(興味の)対象外。調べ物などには便利であると感じているので、辞書や図鑑的な使い方では活用している。



栗原 隆
教頭 ①「おまえうまそうだな」(ティラノサウルスシリーズ…宮西達也)

②推理小説…ダン・ブラウン、経済小説…池井戸潤
③中学・高校の頃、SFや推理物に興味をもっていたようで、星新一、アガサ・クリステイやエラリー・クイーンの推理小説を読んでいたと思います。また、NHKの大河ドラマで、風林火山を放送していたので井上靖の原作を読んでいた。

④TV放送や映画等で興味や関心をもったものに触れると、もっと深く知りたいたいと思うようになるのではないのでしょうか。スター・ウォーズ、ハリー・ポッターなどは良い例ではないでしょうか。
⑤私自身は目が疲れやすいので、遠慮しているのですが、健康やマナーに注意して利用できれば良いのではないのでしょうか。



今泉 朋恵
先生(数学) ①「親しい関係であれば親しい関

係だからこそ、この「他者」であるという認識は重要になってきます。相手を他者として意識するところから、本当の関係や親しさというもののは生まれるものなのです。『友達幻想』(菅野仁著/ちくまブリーマー新書(筑摩書房)より)

②「好きなジャンル」小説が多いです。ミステリーからエッセイまで幅広いですが、ただ、その時々状況で気楽に読めるもの、しっかりと読むもの、など分けています。『好きな作家』高校ではアガサクリステイや太宰治、星新一など。最近では、東野圭吾や宮部みゆきなど読んでいました。4月になり、司書さんお勧めの柚木麻子の小説を読みました。アツコちゃんシリーズは3冊あり、元気になる本ですぐに読めるのでおすすめです。
③高校では、名作を読むという思い立ち電車の中で読んでいました。ほとんど図書館で借りていました。返す期間もあるので、それまでに読み終えるようにしようと思うので。

④まず、新聞を読んでください。スマホのヤフーニュースは手軽ですが、一部を切り取って情報を発信しています。そのことを頭の片隅に置いて、携帯から情報を得ることも必要です。また、新書を読んでください。図書館などにも入っているとあります。もちろん好きなジャンルの小説でもいいと思います。まずは図書館へ。
⑤電子書籍は手軽に持ち運

びできてよいと思いますが、私はやはり紙ベース派です。常に鞆には文庫本を入れて、時間があれば読むようにしています。



金子 祐弥
先生(国語) ①「虚構が協力に可能にした。」

②好きなジャンルは特にありません。また、好きな作家も特にいません。ただ、その時々興味関心にまかせて、読みたいとき(あらたな知識が欲しいとき、必要なとき)に本を読むことにしています。
③大学に合格し、国語の教員免許をとろうと思ったときに、「少なくとも国語便覧で大きく扱われている作家さんの、メインとなる作品くらいは読んでおかないとマズいよな」と考え、生まれてはじめて小説を読みました。高校3年の2月のことです。月並みな話ですが、そこから世界の見え方が変わっていききました。
④人生の壁にぶち当たれば、人は自分の無力さに気づき、自分の頭で考えられる範囲の狭さにも気づき、そのときの自分を助けてくれるジャンルの本に助けを求めらるものだと思います。高校時代に活字に近づくことがなくても、しっかりと人生と向き合っていくには、必ず本に助けを求めるときはくるものだと思います。高校時代からそのことに気づくことができていれば、よりよい生き方を見出せるかもしれ

れません。国語の授業を通して気づかせていきたいです。

⑤私は、小説以外のジャンルの書籍には、後で読み返す時に要点を振り返りやすくなるような工夫(線を引いたり付箋をはったり)をしているので、紙媒体の方がいいです。小説に限定してなら、電子書籍の方がいいかもしれません。



五十部 岬先生(地歴公民) ①「阿形順正は、私の

すべてだった」

②【好きなジャンル】小説(ミステリー以外)【好きな作家】江國香織、西加奈子、小川糸、柚木麻子、有川浩(今是有川ひろなんですか?)、村上春樹・・・女性の作家さんが好きです。

③読書好きの父親の影響で、幼い頃から本を読むのが好きでした。中学生、高校生の時は部活や受験勉強であり本を読む時間がなく、大学生の時に、時間があるのでまた読書するようになりました。教員になってからは、図書館でリクエストして新しい本を入れてもらって読むのが楽しみだったので、子どもが生まれてからは全く読む時間がなくなっていました。

今はもっぱら絵本とこどもちゃれんじしか読んでいません。

④周りで読書をしている人にオススメの本を聞いてみる、テレビで勧めていた本

を読んでみる。自分の好きな芸能人が勧めている本とか。

⑤便利だと思いますが、ブルーライトが目が疲れそう。集めるのが好きなので、紙媒体で持っていたいタイプです。

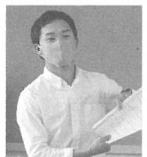


金子 将士先生(体育) ①「悩むな。考えろ。」

②【好きなジャンル】自己啓発他【好きな作家】池田晶子、宮沢賢治、菊池寛

③高校時代、図書館で菊池寛さんの「恩讐の彼方に」を読んだのがきっかけです。

④まずは名作を読んでください。YouTubeなどでも紹介している、名作を読んでみるのがいいと思います。読むのが苦手な人はYouTubeで音読を聞くのもいいと思います。



石川 徳宏先生(地歴公民) ①「・・・不条理と出会ったあとは、いっさいが根底から揺り動かされる。・・・そうしたいっさいが、いつ死ぬかわからないという不条理性によって、目もくらむばかりに激しく否認されてしまうのだ。」

②【好きなジャンル】「哲学・思想」に関連するものです

【好きな作家(もしくは哲学者・思想家)】は「ヒューム」「キルケゴール」「アルベール・カミュ」です。哲学や思想とは全く関係ありませんが、「西加奈子」さんも好きです。

③中学生の時に「生きるってなんだろう?」「不安ってなんだろう?」といったことを考え込むようになり、そのヒントを探すために、必要に駆られて読むようになりました。

④好きなアーティストやスポーツ選手、モデルやお笑い芸人などが書いた自叙伝やエッセイ本を読んでみるように私は勧めます。若林正恭(オールドリー)『社会人大学見知り学部卒業見込』、太田光(爆笑問題)『太田光自伝』、リリーフランキー『誰も知らない名言集』などは読みやすく、興味深かったです。

⑤私はあまり好みません。私は、本を購入して徐々に山積みになっていく感じが好きなもので、紙媒体のものを選んでしまいます。ただし、新聞のみオンライン版で読んでいます。

④好きなアーティストやスポーツ選手、モデルやお笑い芸人などが書いた自叙伝やエッセイ本を読んでみるように私は勧めます。若林正恭(オールドリー)『社会人大学見知り学部卒業見込』、太田光(爆笑問題)『太田光自伝』、リリーフランキー『誰も知らない名言集』などは読みやすく、興味深かったです。

⑤私はあまり好みません。私は、本を購入して徐々に山積みになっていく感じが好きなもので、紙媒体のものを選んでしまいます。ただし、新聞のみオンライン版で読んでいます。

④好きなアーティストやスポーツ選手、モデルやお笑い芸人などが書いた自叙伝やエッセイ本を読んでみるように私は勧めます。若林正恭(オールドリー)『社会人大学見知り学部卒業見込』、太田光(爆笑問題)『太田光自伝』、リリーフランキー『誰も知らない名言集』などは読みやすく、興味深かったです。



板垣 光生先生(国語) ①「未熟な人間の特徴は、理想の」

②【好きなジャンル】「哲学・思想」に関連するものです

【好きな作家(もしくは哲学者・思想家)】は「ヒューム」「キルケゴール」「アルベール・カミュ」です。哲学や思想とは全く関係ありませんが、「西加奈子」さんも好きです。

②村上春樹 J・Dサリンジャー

③村上春樹の小説を読み、そのリズムに惹かれたから

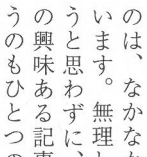
④自分の生き方に疑問や迷いが生じたときに人は自然と物語を求めるもの。そのときが来るまで待てばいい。それが活字であろうと映像であろうと、自分の人生が豊かになるのであれば、それで良いと思う。

⑤便利であれば良いと思う。ただ、私は紙の媒体を好んでいる。向き合う時間を重ねるほど、手になじみ身体に溶け込む感覚が好きだから。電子は、どこか他人行儀な気がする。



大島 義人先生(英語) ①なし ②大沢在昌、白川道、黒川博行などのハードボイルドが好きです。最近では、

③特に覚えていません。視力の低下とともに最近では読む量が減りました。



大島 義人先生(英語) ①なし ②大沢在昌、白川道、黒川博行などのハードボイルドが好きです。最近では、

④嫌いなことを敢えてするのは、なかなか大変だと思います。無理して読書しようと思わずに、まずは雑誌の興味ある記事を読むというののひとつの方法かと思っています。

⑤特に興味ありません。利用しようとは思いません。



伊藤 至音先生(理科) ①「国籍とか民族を根拠に差別するやつは、無知で弱くて可哀想な奴なんだ。だから俺たちがいろいろなことを知って、強くなつてそいつらを許してやればいいんだよ。」

②好きなジャンルや作家は特にないです。雑誌をはじめ、自己啓発本や、小説、画集など幅広く読んでいます。ジャンルや作家に縛られることなく本を読むことで、いろいろな知識、考え方や価値観を身につけることができると思います。

③自分の趣味などを深く知りたいと思えば雑誌を定期購読したことがきっかけだと思っています。雑誌を読むことも読書の始まりであると私は思います。今では雑誌やSNSなどで知った気になった本を購入したりするようにになりました。

④まずは本屋に出向くことが大事だと思います。本屋には必ずと言っていいほど自分の興味を引くような本があります。高校生になつてから本屋に行ったことがないという人は多いのではないのでしょうか? 本屋に出向き、自分の興味を引く本を探してみるのも面白いですよ。

⑤電子書籍でもいいと思います。それがきっかけで本を読む習慣はつくといは思います。ただ私はどこでもいつでも

気軽に取り出せたり、集中できたり、読み終えたときの達成感も好きなので紙媒体をおすすめします。電子書籍よりも紙媒体の方がその本の世界に入り込める気がします。

②最後は心が温かくなるようなミステリーが好きです。また、ミステリー小説には伏線回収しながら読み返す楽しみがあります。好きな作家は、宮部みゆきです。

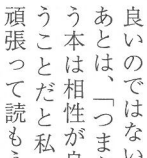


能登屋 祥子先生(事務) ①エヴェレストに人生の全てを賭けたT.H.E男の浪漫

③記憶は定かではありませんが、保育園の頃によく先生が読み聞かせをしてくれましたので、常に本は身近にあった気がします。また、幼少の頃、親が本屋に連れて行ってくれて、自ら選んだ本を買ってもらい、家で嬉々として読んでいた記憶があります。

④漫画やドラマになったものの原作を読んでみるのも良いのではないのでしょうか。あとは、「つまらない」と思う本は相性が良くないということだと私は思うので、頑張つて読むとせざるに面白く感じる本を読んだ方がよいと思います。

⑤省スペース、エコ、合理的で良いと思います。ただ、私はパラパラとめくる感じも好きですし、本を読んでいる「特別感」を味わいたいのので、好きな本は紙でできた本を買います。



能登屋 祥子先生(事務) ①エヴェレストに人生の全てを賭けたT.H.E男の浪漫

⑤省スペース、エコ、合理的で良いと思います。ただ、私はパラパラとめくる感じも好きですし、本を読んでいる「特別感」を味わいたいのので、好きな本は紙でできた本を買います。

⑤省スペース、エコ、合理的で良いと思います。ただ、私はパラパラとめくる感じも好きですし、本を読んでいる「特別感」を味わいたいのので、好きな本は紙でできた本を買います。

池田 洋一
先生(公仕)

記憶が曖昧です。

②【好きなジャンル】エッセイ、科学、ビジネス書、マンガ【好きな作家】開高健、椎名誠。

③小学生の頃、百科事典を買ってもらい、知らない国の写真を眺めたり、知らないことを調べたりすることが好きで、その延長上で紀行エッセイや科学雑誌を読むようになりました。

④自分が楽しいと思える本を見つけると良いと思います。(私は活字離れは時の流れのように思います。)

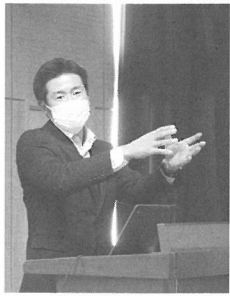
⑤手軽に素早く読めて良いと思います。ただ一覧性がないので、表を見ながらの調べ事には不便を感じます。

図書館主催講演会

「東の横綱 館林四中」

講師 金子 祐弥 先生

12月3日(金) 第二学期期末考查最終日、金子祐弥先生(国語)を講師にお迎えして、図書館主催の講演会を視聴覚室で開催しました。講演内容は次のとおりです。



「東の横綱 館林四中」この言葉は、今から十五年ほど前、ちょうど君たちが生まれた頃に、群馬県内の中学校教諭の間で使われていた言葉です。

別の言い方として「東の館四、西の箕郷」というものもありました。「箕郷」とは高崎市の箕郷中のことです。具体的に、何を意味する言葉なのか。それは「群馬県内の生徒指導困難『スパーエリート校』を意味するものでした。この二つの中学校は、当時の群馬県中学校教諭間では「決して異動してはならない学校」とされ、「もしそこに異動してしまえば、その後の教員生命に関わることになる」と恐れられていました。

「事実上は小説よりも奇なり」この格言が、私の館林四中赴任当初の思いをすべて集約してくれているように思います。講演会では、ドラマの「金八先生」や「ごくせん」を超えるような様々なエピソードを、面白おかしく語らせていただきましたが、このような原稿の上では割愛させていただきます(文字にするに間違いなく「笑えない」内容になってしまいますので)。

「ハハハハ」という罵声が飛び交った時、「こいつら、ただじゃおかねえぞ」というスITCHが自分の中で入ったことだけは伝えておきます。

当時の四中職員は、職員室内で、生徒に対して「1軍」「2軍」「一般生徒」というランク付けをしていました(今考えてみると、このような職員の体質こそが、四中の暗黒時代を招いた理由の一つでもあったと思います)。ちなみに「1軍」とは「高校への進学意識は『なし』。なんでもあり。無敵。な生徒のこと。」「2軍」とは「高校への進学意識は『あり』。ただし1軍と交友関係は同じ。進学意識がある分、自制はきく。ような生徒のこと。ただし、文字通り「1軍より立場が下」なわけではなく、中には「1軍」を率きつて動かすことのできる「2軍」という生徒もいました。そして「一般生徒」とは、1軍2軍の影響を受けない、良い生徒という意味です。ただし、そんな「一般生徒」も、学年が上がるにつれて「3軍」「4軍」という意味不明の序列に組み込まれていく図式がありました。

新たに四中へ赴任した職員にも、明らかな共通点がありました。それは、「年齢が二十代後半」ということと「前任校で部活動において実績をあげている」ということです。私自身も、その時28歳であり、前任校では何度か県大会優勝を果たしていたので、完全にその共通点に当てはまる存在でした。

後で知ったことですが、館林市教育委員会でも「四中をなんとかしなければならぬ」という認識はあったようで、特に内情に詳しい方の中には「2軍」勢力をどうするかが鍵を握る」という考えを持っていた人という考えを持っていた人。当時の学校教育課課長は「だったら部活指導に長けた若手教員を一齐に集めて、四中を『部活王国』にしちゃえばいいじゃん」という案を打ち出したのだそう。そしてこの案こそが、この年の大量異動を生み出した実際の理由だったそうです。正直「マンガじゃないんだから」という案です。しかし、言い出した当の本人は本気だったようで、その証拠に、その学校教育課課長は翌年、自らが校長として四中に赴任してきました。

義でかまわない。人間教育なんて考えなくていい！」私はその時、この人のことを、教育者として「完全に壊れている」と思いました。しかし、同時に「不思議な痛快さ」を感じました。私たち若手教員は、その日から彼のことを「校長」ではなく「親分」と呼ぶようになりました。

果たして、学校建て直しのための「部活王国化」計画の結果はどうなったのか。私は、ここでも改めて「事実は小説よりも奇なり」な体験をすることとなりました。そして、四中がなぜ「東の横綱」と言われるまでの壊れ方をしてしまったのか、その理由も掴むことができた。その理由については、私なりの考察は次の通りです。



「達はどうなったのか。その答えは「底知れないエネルギーを発揮する」というものでした。二年後、野球部は関東大会出場(一年前までは、三年連続春夏秋のすべての公式戦で市大会1回戦負けのチーム)。その翌年にはサッカー部も関東大会出場。そしてその翌年には柔道部とテニス部が全中出場を果たしました。

日々の学校生活の中に、理屈抜きに全力で駆け抜けていくような疾走感が生まれました。教師と生徒の間に一体感が生まれ、その実感がありません。『プライドオブ四中』という言葉が生まれ、校訓のような扱いになっていきました。気がつけば、非行問題とは無縁の学校へと変貌を遂げていました。

学校建て直しのための「部活王国化」計画の結果は、恐ろしい程の「大成功」でした。

発案者である「親分」は、昨年度まで館林市の教育長を務めました。

：あのオヤジ、やっぱり只者じゃなかったな。

ただ、地獄絵図のような状況の中で行われた新任式において、壇上で「みなさんこんにちは」と挨拶をした瞬間に、「帰れ」「呼んでねえよ」「誰」「ギャ

人気貸出図書

順位	書 名	利用者数
1	お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件 (佐伯さん著)	20
2	ロクでなし魔術講師と禁忌教典シリーズ (羊太郎著)	11
3	SLAM DUNK (井上雄彦著)	10
4	スターティング・オーバー (三秋縋著)	9
5	かがみの孤城 (辻村深月著)	8
6	Fate/strange Fake 1 (成田良悟著)	6
	ノーゲーム・ノーライフ 4 (榎宮祐著)	6
	逆ソクラテス (伊坂幸太郎著)	6
	元彼の遺言状 (新川帆立著)	6
	白鳥とコウモリ (東野圭吾著)	6

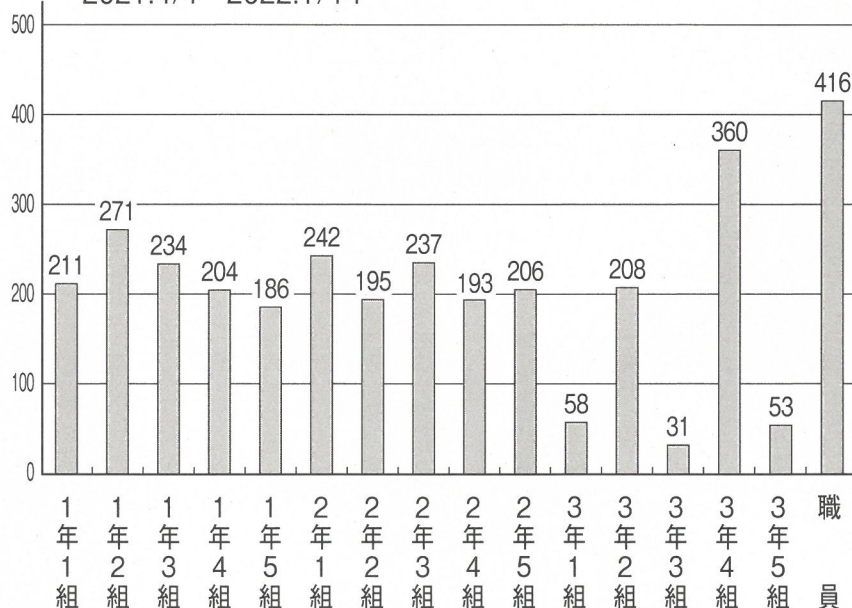
貸出利用冊数上位者

順位	クラス	氏 名	利用数
1	3-2	川田 隆輔	102
2	3-4	須藤 侑哉	98
3	3-4	神山 耀慶	76
4	3-4	福田 健仁	69
5	1-2	岩下 彪雅	48
6	3-2	和田晋太郎	46
6	1-1	糸井 崇馬	46
8	2-3	曾原 煌暉	39
9	1-3	ナカムリ ムロ	35
10	3-4	新崎 颯大	33

クラス別貸出冊数 本年度総数 3,305 冊

(昨年度総数 3,387 冊)

2021.4/1~2022.1/14



「図書委員活動を振り返って」

図書委員回顧録

3年1組29番 根岸 巧

(図書委員長)

私は高校入学前から図書委員会に入ることを決めていました。理由は、カウンター当番をやってみたかったからです。具体的には、本を貸し出すとき、本を返却する際にバーコードを「びっ」したかったからです。このような不純な動機で私は3年間図書委員を務めていました。

しかし入ってみてから実感したことは、この学校の生徒はあまり本を借りて来ないということでした。ですからあまり私自身の欲望、あるいは願望は満たされませんでした。そんな私の欲求があまりにも満たされる時期がありました。新書読破月間です。毎日のように図書室が満員になっていました。休む暇もなくバーコードを「びっ」しました。大変でしたがとても楽しかったです。

そんな私は、3年間図書委員を務めたので、ある法則に気づいてしまいました。感想用紙の提出期限ギリギリに借りて来て、次の日に返す人が多いことです。読破していない人がほとんどだったのではありません。あらずにだけ読んであてもなく埋めていたのでしょうか。図書の人は心のなかで玉井さんに謝罪してください。私は、

図書委員である以前に一人の本好きなので少し悲しくなりました。

なぜ私が本を好きなのかというと、大きな壁や疑問、課題に直面したときに、思いもよらぬ視点からヒント、あるいは答えを教えてください。小説家は小説家になるために1000冊もの本を読むそうです。つまり小説家は莫大な量の知識を有しているということです。そんな卓越した知識を一冊の本に凝縮しているのです。自分の悩み解決への一番の近道だと思います。大きな壁にぶつかったとき、暇ができたとき、ぜひ本を読んでみてください。ジャンルは何であれ、まずは一冊読み切ること、次に意味があると私は考えます。その一冊が自分の学校生活、もしくは人生観に大きな影響を与えてくれるかもしれません。ぜひ図書室に足を踏み入れてください。自分にあう一冊が必ずあります。その一冊が皆さんの生活をより良いものにしてくれる事を信じています。

